

Windows のホントの話

事務で利用する PC の OS はほぼ Windows 11 です。今回は Windows を使用する際に知っておくとよいホントの話、ではなくフォントの話をしてします。

普段どのようなフォントを使用しているか気にしたことのない人も多いかと思います。ですが、きれいなフォントを利用すると文書の見た目がきれいになりますので、使用するフォントが指定されている場合を除き、きれいなフォントを利用するようにした方がよいです。

筆者がお勧めする追加費用なしに利用可能なフォントは BIZ UD フォント、あるいは UD デジタル教科書体です。ちなみに、この DX 推進室通信は UD デジタル教科書体が使用されています。なぜこれらのフォントがお勧めなのかというと、万人が見やすくなるように設計されているフォントだからです。両方とも UD とフォント名に付いていますが、UD は Universal Design の略で、両フォントとも見やすく読み間違えにくくなるように開発されています。ですので、これから文書を作成するのであればどちらかのフォントの利用をお勧めします。

昔から引き継がれている文書ファイルだと MS 明朝や MS ゴシックが使われていることも多いです。できれば時間のある時にフォントを別のモダンできれいなフォントに変更していくとよいです。見た目がきれいだとそれを見た人の気分もよくなります¹⁾。フォントが指定されているのでなければ、これから新しく作成する文書のフォントには MS 明朝や MS ゴシックを使うことはやめた方がよいです。その昔、Macintosh を利用している方の中に、Windows は標準で利用できるフォントが汚いと言っている人がいると聞いたことがありました。そんなこと聞いた当時、筆者はあまり気にしていませんでしたが、Windows でもきれいなフォントが利用できるようになった時、今まで使ってきたフォントはあまりきれいではなかった、という事実気づきました。今まで使ってきたフォントというのが MS 明朝であり MS ゴシックです。それらのフォントの功績は非常に大きいのですが、世に出てからもう 30 年以上が経過しています。解像度の低いディスプレイでも見やすいように開発された MS 明朝や MS ゴシックは、きれいさよりも見やすさが優先されています。そのため、解像度の高い最近のディスプレイでそれらのフォントを見ると、他のきれいなフォントに慣れていることもあり、文字が汚く見えてしまいます。もっときれいで読みやすく、標準で利用可能なフォントがありますので、MS 明朝や MS ゴシックを使い続ける理由はもはやありません。これからは BIZ UD フォントや UD デジタル教科書体を利用することをお勧めします。手間やお金を惜しまなければ、フリーで利用可能な気に入ったフォントを探してインストールしたり、フォント製品を購入してそれを利用したりしてもよいですが、業務で作成する文書であれば、BIZ UD フォントか UD デジタル教科書体を利用するようにするとよいのではないのでしょうか。

なお、BIZ UD フォントや UD デジタル教科書体にはいくつかのフォントが含まれていますが、大きくプロポーショナルフォントと等幅フォントに分けられます。プロポーショナルフォントはフォント名に Proportional の頭文字の P が含まれています。UD デジタル教科書体の場合、フォント名に K が入っているものもプロポーショナルフォントで、日本語の文書の場合は仮名や漢字も含めてプロポーショナルな K が付いているフォントを利用するとよいです。1 行の文字数が決まっている場合には等幅フォントを利用する必要がありますが、そうでなければプロポーショナルフォントを使用するとよいです。どうしてかというと、プロポーショナルフォントは見栄えが良くなるように文字毎に横幅が調整されているからです。

ただ、これらのフォントにも残念な点があります。それは、0 (ゼロ) と O (大文字のオー)、1 (数字のイチ) と l (小文字のエル) の区別が付きにくいという点です。文書を作成する場合にはあまり問題にならないと思いますが、間違えられると困るような場合には、そこだけ区別しやすいフォントに変更するなどの工夫が必要です。

ということで、今回はフォントのお話でした。昔から使用されている文書のフォントを変更するのは手間ですので MS 明朝でも仕方ないですが、これから見る新たな文書のフォントがきれいなものになっているといいな～、と思っています。

¹⁾ もちろん、文書の内容やその時の気分によってはよくならないこともあります。